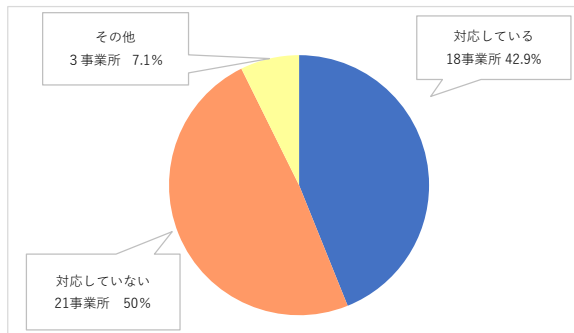


「人生の最終段階における医療・ケアの意思決定支援（ACP・DNAR含む）」に関する実態調査(入所施設) 結果  
 調査対象事業所：42事業所（介護老人福祉施設：4事業所、介護老人保健施設：3事業所、有料老人ホーム：16事業所、養護老人ホーム：1事業所、軽費老人ホーム：1事業所、介護付き有料老人ホーム：4事業所、サービス付き有料老人ホーム：4事業所、グループホーム：8事業所、小規模多機能型居宅介護事業所：1事業所）  
 回答事業所：42事業所      回答率：100%

【問1】貴事業所では、看取りに対応していますか。

【41事業所の看取り対応状況】



【看取りに対応している左記18事業所の種別と実施率】

種別	事業所数	実施率
介護老人福祉施設	4事業所	100%
介護老人保健施設	3事業所	100%
有料老人ホーム	7事業所	44%
介護付き有料老人ホーム	2事業所	50%
サービス付き有料老人ホーム	1事業所	25%
グループホーム	1事業所	12%

その他の意見：・基本対応していないが状態、希望によっては対応する。  
 ・状況と主治医により対応。  
 ・医療行為なしでもよければでしょうか。

【問1】で看取りに「対応している」「その他」と回答した方は昨年度の看取り件数を教えてください。

【介護老人福祉施設：4事業所】

事業所	実施数
A	11件
B	11件
C	7件
D	5件

【有料老人ホーム：7事業所】

事業所	実施数
A	9件
B	6件
C	5件
D	2件
E	1件
F	2件
G	0件

【介護付き有料老人ホーム：2事業所】

事業所	実施数
A	3件
B	0件

【介護老人保健施設：3事業所】

事業所	実施数
A	24件
B	7件
C	7件

【サービス付き有料老人ホーム：1事業所】

事業所	実施数
A	0件

【グループホーム：1事業所】

事業所	実施数
A	2件

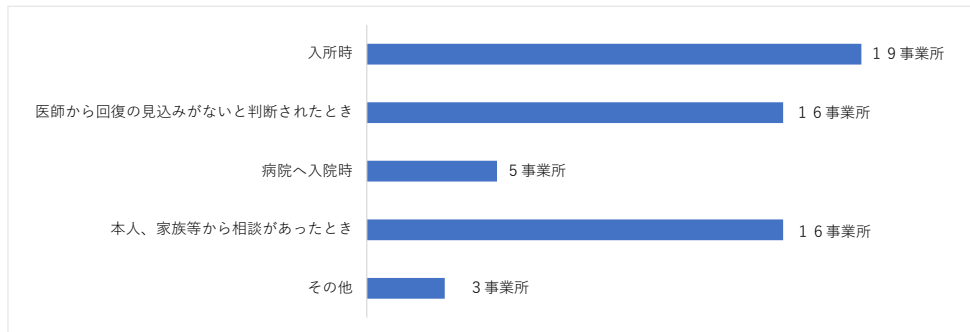
【問2】貴事業所では、【人生の最終段階における医療・ケアの決定プロセスに関するガイドライン】等を参考に、利用者の人生の最終段階における意思確認（ACP・DNAR含む）を行っていますか。（複数回答可）

【利用者の人生の最終段階における意思確認（ACP・DNAR含む）を行っている事業所の種別と実施率】

事業所の種別	実施数	実施率
介護老人福祉施設	4事業所	100%
介護老人保健施設	2事業所	67%
有料老人ホーム	6事業所	37%
養護老人ホーム	1事業所	100%
軽費老人ホーム	1事業所	100%
介護付き有料老人ホーム	1事業所	33%
サービス付き有料老人ホーム	4事業所	100%
グループホーム	4事業所	50%

【問3】 【問2】で「行っている」と回答した方にお聞きます。意思確認を行っている時期を教えてください。  
(複数回答可)

【看取りに対応している上記18事業所の回答（複数回答）】

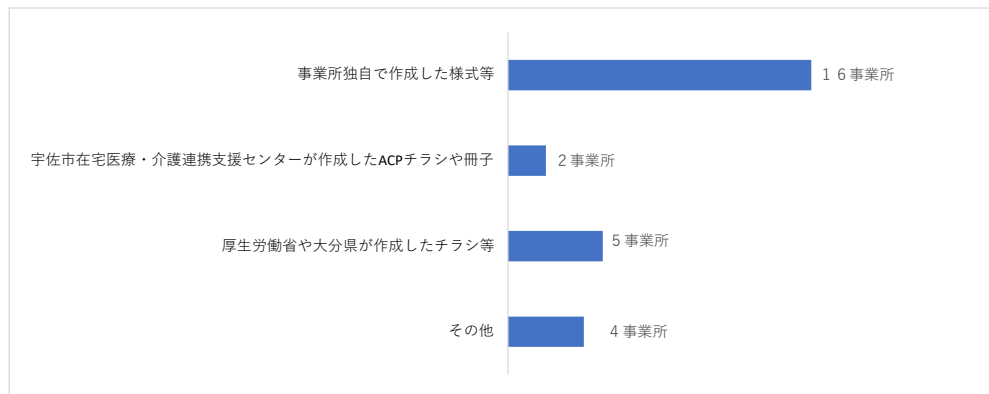


その他の意見：・都度、担当者会議等で意思確認。

- ・モニタリングでの会話の中で。
- ・モニタリングの中で必要な時に伺っている。

【問4】 貴事業所ではどのような様式を利用していますか。（複数回答可）

【看取りに対応している上記18事業所の回答（複数回答）】



その他の意見：・特に冊子は使用していません。

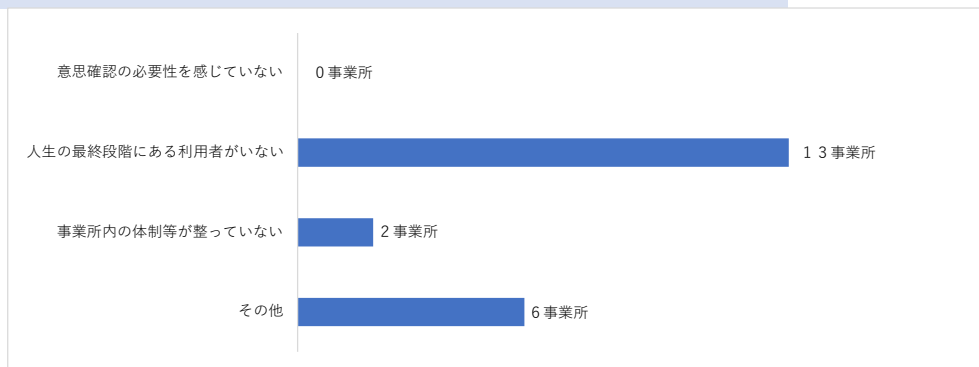
- ・特に決まった様式はないが、フェースシート等施設書類に確認した内容を記載している。
- ・介護ソフトに記録として残している。
- ・介護ソフトの中で記録として残している。

【問5】 貴事業所で確認した患者さんの意思について、その方に携わる医療・介護の多職種と情報を共有していますか。

【医療・介護の多職種と意思を情報共有している事業所の種別と実施率】

事業所の種別	実施数	実施率
介護老人福祉施設	4事業所	100%
介護老人保健施設	3事業所	100%
有料老人ホーム	6事業所	100%
養護老人ホーム	1事業所	100%
軽費老人ホーム	1事業所	100%
介護付き有料老人ホーム	1事業所	100%
サービス付き有料老人ホーム	4事業所	100%
グループホーム	3事業所	75%

【問6】 【問2】で「行っていない」と回答した方にお聞きます。人生の最終段階における意思確認（ACP・DNAR含む）を行っていない理由を教えてください。（複数回答可）



その他の意見：・意思確認などは行っているが、それがガイドラインに沿っているかどうか分からない。

- ・本人が意思決定出来ない為、家族の意向で判断している。
- ・ターミナル期は病院に移行するためです。
- ・体調が悪くなった場合は、隣接している病院へ行かれるため。
- ・現在、法人内で導入のため整備中。今後導入予定。
- ・必要性は重々認識していますが、近々の課題があり6ヶ月以内を目処に対応していきたいとは考えています。

【問7】 人生の最終段階における意思決定支援（ACP・DNAR含む）を行う上で、困っていることや思うことをお書きください。

- ・ご利用者本人の意思確認が認知症や疾患の為に出来ないことが多い。
- ・特養という施設の性質上、ご本人の意向を確認することが難しいです。
- ・延命処置についての説明を家族にしているが、難しいと感じる。
- ・①定期的に意思決定の確認を行っているが、主介護者及び本人以外の方の意見があがる時があります。その時はご家族間で検討してくださいと言っています。あくまでも本人の意思を尊重はしたいと思っています。
- ・②お元気なうちから、お話が出来る時から、最終章をどのように彩のある最期を送って頂くか、いつも考えながら生活の質を高めて行けたらと思います。
- ・③緊急搬送になった時は、意思決定事項を引継ぎとしてさせて頂いています。
- ・当施設入所時点で、ご自身で意思決定を行えなくなっている方がほとんどで、事前にご家族などが最終段階における意思の確認を済ませている方も少なく、最終段階の決定がご本人ではなくご家族の意向による決定となってしまっている。
- ・ターミナルに向けて詰めて会話を行っていない。
- ・自分で意思決定できない方も多いため、家族への意向の確認は必要かと思います。
- ・入居時はお元気な方が多く最終的な意思決定がご家族も難しいため、状態が変わった時点でご家族と相談させていただくことがあるが、デリケートな事で、聴く事で不穏になるご家族もあり、確認が難しく困っている。
- ・いずれは対応をしていかなければならないと思っていますが、研修等の履修学習が追いついていません。
- ・人材不足。
- ・認知機能の低下が著しく、ご本人の意思を汲み取ることが難しい。
- ・本人様の意思を伺うタイミングが難しく、本人様と御家族様の気持ちのズレがある時が難しい。
- ・本人様が何処で最期を迎えたいのか、迎えさせたいのか。できればご家族で早いうちから、お話をされておいたほうが慌てなくてすむかなと思います。それでも、最後が近づいてくると、思いが変化されてくる家族様もいらっしゃいます。施設ではできることが限られていますので、ご希望に添えないことも多々あります。そのような時の医療連携ではないかと思います。個人的には、家族と共に穏やかに最期を迎えさせてあげたいと考えます。
- ・隣接に協力医療施設があるので特に困り事はありません。
- ・説明者を誰にするのか。
- ・本人の意識がない時、判断に悩んでいる家族に相談された時の助言。

- ・利用者様が意思決定できない状態で入所される事が多く、情報もない事が困っている。そのような方は、結局施設側のやり方で 生かされ最期を迎えています。
- ・認知症により、過去に把握した意思を確認しようとしてもできず、家族の意向でご本人の意思が無視されてしまう時。
- ・入所時にご本人の意思確認ができない状況下では、ご家族様の希望のみの確認となっている。
- ・特にない。
- ・人員不足、医療機関との連携の難しさを感じます。
- ・本人様、ご家族様の思いを確認対応しつつ、都度、職員の意識付けやマニュアル的な支援、看取り後のフォローも必須。
- ・事業所としての総合的ケアに対する取り組みが出来ていない。
- ・入所時に確認しているが、家族間での意見統一ができていないことがある。
- ・慢性的な人手不足のため、現状維持が精一杯な状況です。
- ・家族、職員の認識や知識に大きなばらつきがあり、職員教育や家族への伝え方を改めて考えなければならない。
- ・入居の際、すでに認知症を患っている。ご家族がいない方。
- ・病院・施設を含め、統一したフォーマットで内容が共通認識できるものが必要だと考えている。先日、法人内で統一フォーマットの話し合いを行っている。
- ・今後進めていく予定なので特ありません。